

オオジュリン（ホオジロ科） 全長16センチ

4月1日、大浦沼の周囲には寒々とした枯れたアシの茎が所々に残っている。早春賦～春は名のみの風の寒さや～です。

静かに車を進めると、アシの根元から小鳥が数10羽飛び出した。羽の色合い、大きさがスズメとよく似ているが、双眼鏡で確認すると、オオジュリンであった。背中中の淡色の縦斑がアシの枯れた茎にまぎれ見えにくいので、保護色となっているのでしょう。地面に降りていることが多いので、飛び立たなければ見つけることは困難です。



オス。寒空のなか、風に揺れながらヨシの茎につかまっていた。

夏の季節には繁殖地の高地に移動することから、平地で見ることはありません。

今の季節はまだ冬羽で、オスと思われる個体は頭がやや黒くなっているのが判別されます。アシの茎に縦にとまることができ、茎から茎へと移動を繰り返していた。茎をつつき、中から幼虫のようなものを引っ張り出し食べていた。

ガイドブックによると、蛾の幼虫やカイガラムシ類などを採食するとされている。この地に滞在するのは短く間もなく見納めでしょうか。



メスが地面から上がってきた。



飛び上がった。



左右に大きく揺れながら、しっかりとつかまっている。



茎をクチバシでつつくと、小さな虫を引っ張り出した。